

猪苗代湖及び裏磐梯湖沼水環境保全推進計画（中間整理案）の概要

1 現状や課題を踏まえた計画の方向性

猪苗代湖においては、湖水の中性化に伴う自然浄化機能の低下及び水生植物の増加などにより、平成 14 年度以降化学的酸素要求量（COD）の上昇傾向が継続している。

また、裏磐梯湖沼においては、水質保全目標は達成していないものの、適用される環境基準は達成し、水質は比較的良好な状態である。

このような状況を踏まえ、猪苗代湖及び裏磐梯湖沼の水質を長期的に維持することや水辺地の生態系の維持などを総合的に捉えた水環境保全のための取組を県民、事業者、県及び関係市町村等が連携して、一層進めていく。

また、猪苗代湖の水環境保全のための調査研究を引き続き実施し、水質改善に向けた取組を進めていく。

2 改定のポイント

(1) 水質保全目標の見直し

猪苗代湖の湖心の COD については、湖水の水素イオン濃度（pH）の上昇による湖内での自然浄化作用の低下や水生植物の増加などによる上昇傾向が見られるため、水生植物の刈取量を増やすことで、水生植物の増加に伴う COD の上昇を抑えながら、猪苗代湖に流入する人為的な汚濁物質を最大限削減した場合に、達成可能と見込まれる 1.0mg/L 以下を新たな目標とし、将来的には「水質日本一」への復活を目指す。

(2) 強化する主な施策

ア 生活排水対策として、窒素りん除去型浄化槽の設置促進に加え、既存のものを含め浄化槽の保守点検、清掃、法定検査の受検などの適正な維持管理の徹底を促進する。

イ 水質改善に向けた取組として、令和 3 年度から新しいビーチクリーナーが稼働し、また、令和 4 年度から県所有の水草刈取船が稼働する予定であり、水生植物の回収を強化する。

ウ 猪苗代湖流域における水生植物の資源循環に向けた取組を進める。

エ 猪苗代湖に流入する河川において、生活系、農業系の排水による汚濁負荷をより低減させるため、水質浄化施設による実証試験を行い、社会実装に向けた検討を進める。

オ 観光交流施設やインターネットなどを通じて、映像等を活用して猪苗代湖流域の魅力の発信を強化する。

3 今後の予定

時期	環境審議会		備考
	全体会	第2部会	
令和3年9月		中間整理案	
10月		計画案	パブリックコメント
11月	答申案		計画改定